



えんさつ えんだま 500円札がどうして500円玉になったの

なんびやくえん か もの きかい 何百円かの買い物をする機会がふえた

えんだま どうじょう ねん しょうわ ねん がつ こうか
500円玉が登場したのは、1982年（昭和57年）4月からです。それまで硬貨は
えん えん えん えん えん こうか こぜにい なか
1円・5円・10円・50円・100円でした。それらの硬貨は、いずれも小銭入れの中
い
に入れられていました。しかし、スーパーなどで何百円かの買い物をする機会がふえて、
ひやくえんだま ひつよう すうひやくえん か もの さいふ なか
百円玉がたくさん必要になりました。数百円の買い物をするためには、財布の中から50
えんさつ えんさつ と だ こぜにい えんだま なんまい と だ
0円札が1000円札を取り出すか、小銭入れから、100円玉を何枚も取り出すかしな
ければならなかったのです。

じどうはんばいき りよう かっぱつ 自動販売機の利用が活発になった

また、このころから自動販売機の利用が活発になり、町のいたるところに自動販売機が
えき きっぷ じどうはんばいき だま じどうはんばいき か
おかれ、駅の切符の自動販売機はもちろん、パチンコ玉まで自動販売機で買えるようにな
りました。

その場合、ばあい えんだま なんまい い えんだま まい
100円玉を何枚も入れて、というよりも、500円玉1枚のほうがほかの
こうか こぜにい い こうか つか まいすう すく
硬貨といっしょに小銭入れにも入れやすいし、硬貨を使う枚数も少なくてすむしというこ
とから、えんさつ へ えんだま
とから、500円札が減って、しだいに500円玉にきりかえられていったのです。

（監修・保岡 孝之）

